

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学校像	児童生徒の病状の程度、能力、適性、進路に応じた教育を行い、学校、医療・福祉、保護者、地域との連携のもとに、学ぶ楽しさや生きる喜びを育て、自己肯定感をもって社会参加し、自立できる人間に育てる。	目指すべき姿の概要に	<p>センター的機能の発揮及び、チーム学校として組織的・協動的に以下の項目に取り組む。</p> <p>【1】専門性の向上 ◇ 病弱教育に対する教職員の知識とスキルの向上を図る。 ICTを効果的に活用した実践研究を行い、ICT活用指達力及び授業力の向上を図る。</p> <p>【2】キャリア教育の充実 ◇ 児童生徒の自己肯定感や自尊感情を育む。 ◇ 職業や職種に関する情報提供を行い、児童生徒の勤労観・職業観を育む。</p> <p>【3】学校設定項目 ◇ 多様な教育ニーズに対する教育内容の創造 高知県特別支援学校再編振興計画(三次)に係る確実な進捗管理</p> <p>【4】働き方改革 ◇ 適切なタイムマネジメントと業務の効率化</p>
《取組の方向性》	<p>《6つの基本方針》</p> <p>①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に適した教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保</p> <p>《6つの基本方針に関わる横断的な取組》</p> <p>①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進</p>	目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分や周りの人たちが大切にできる児童生徒 目標をもち、自ら考え行動できる児童生徒 自分の将来に夢をもつことができる児童生徒 <p>病気の回復や改善に必要な態度や習慣を身に付け、病気に負けず夢や希望に向かって進もうとする児童生徒</p>		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	<p>◆ICTを効果的に活用した実践研究を行い、ICT活用指達力及び授業力の向上を図る。</p> <p>◆学習の空白や遅れを作らないように、個々の児童生徒の実態に合わせた授業づくりを行い、安心して前籍校にスムーズに復学できる学力をつける。</p>	<p>◆H28年度からICT活用について実践研究に取り組みできた。教員のICT活用技術・技能は向上してきており、どの授業でも活用されるようになった。</p> <p>◆児童生徒が自らICT機器を操作し、活用するため、先進校よりICT活用についての情報収集を行い、ICT活用指達力の向上を図る。</p> <p>◆病状や治療により学習できる時間は限られているため、各教科等において学習内容を精選し、効率的な授業を行う必要がある。</p> <p>◆児童生徒の病気は多岐にわたっており、研修により病気についての知識・理解を深めると共に、病院及びSCと連携する。 <評価指標> ○学校評価における児童生徒の学習の満足度を80%、教員のICTの効果的活用に関する項目の肯定的評価「そう思う」を60%以上にする。 ○授業評価シートを改善し、評価を行う。教員は指導の改善につなげ、児童生徒は自己成長を促すためのツールとして活用し、その効果を検証する。</p>	<p>◇ICTを教員と児童生徒の両者が活用する。通常の授業の中で授業評価シートを活用し、授業評価を行う。評価結果からその効果を検証する。</p> <p>◇ICT支援員等外部講師を活用し、ICT活用やプログラミング教育に関する研修会を年間3回以上実施する。</p> <p>◇前籍校での学習の進捗状況を確認し、授業内容を精選して進める。学習進度は兼務教員とも確実に共有し、担任が把握する。 ◇医師等の外部講師を招聘しての「病気」についての研修会を年間3回以上実施する。 (児童生徒の病気に合わせた内容) [テーマ例] ・「小児がんについて」 ・「児童生徒の心の病気について」 ・「病気の子どもへの心理的ケアについて」 ・「不登校の児童生徒の支援について」等</p>	<p>◇在籍児童生徒については、学習の中にもクロームブックを活用した。学習終了時には、クロームブック活用についてのアンケートを行い、活用状況を把握している。</p> <p>◇ICT支援員による研修会、教員同士での研修会を実施した。クロームブックで使用するアプリについて教員の理解が進んだ。</p> <p>◇在籍児童生徒については、前籍校の担任と連絡を取り合い、学習進度に遅れがないように学習を進めることができた。</p> <p>◇高知大学医学部附属病院小児科院長菊地Drより小児がん(神経芽腫)について研修を行った。病気についての知識を支援に生かしたい。</p>	<p>◇研究部が、クロームブック活用についての研修会の設定、活用状況を実践集録にまとめることを提案、各自が授業実践の中で取り組む。</p> <p>◇質問箱を設置し、分からないことがあれば、たとえ小さなことでもすぐに解決できるようにする。</p> <p>◇児童生徒の転校があれば、すぐに前籍校に連絡し、学習進度を把握する。</p> <p>◇不登校児の支援、病気の子どもへの心理的ケアについての研修会を実施する。</p>	<p>◇ICT活用状況把握のため、教員アンケートを実施した。クロームブックはどの教員も授業で月に数回以上は使用していた。教員自身の使用は「使っている」が3人、「使っているがうまくいかないことがある」が2名、「使いたいの自学中」1名であった。分からないことを教員同士で教え合えるよう質問箱を設置したが、あまり質問は寄せられていない。しかし、教員同士で聞き合う機会は多く見られ、活用意欲は向上したと考える。</p> <p>今年度はICT支援員の配置がなく、講師を迎えての研修会はできなかったが、県が主催する研修会には担当者だけでなく、全教員で参加した。</p> <p>学校評価では、児童生徒の学習についての評価は「教材」では58%、「教え方」では42%であった。教員の「そう思う」は40%であった。「ややそう思う」を入れると100%ではあったが、「そう思う」と思えるよう一層の努力が必要であると考えられる。</p> <p>◇前籍校との連携については、必要に応じて教頭、教員が連絡をとり問題なく学習を進めることができた。</p> <p>◇1学期に小児がんを小児科医師から、2学期には病気の児童生徒及び保護者への支援方法について学ぶ研修会を高知工科大学教授を招き行った。</p> <p>今年度は、児童生徒に一人1台ずつクロームブックが配布されたことにより、クロームブックを活用するを主軸に取り組んだ。授業評価シートの改善、授業評価については、個々には取り組んだが、学校全体のものにはできていない。次年度も継続して取り組みたい。</p>	B	<p>・日常的に児童生徒がクロームブックを使用しているような学校の環境整備、授業研究をする。</p> <p>・教育実践につながるようなICT研修、クロームブック活用のための研修をする。</p> <p>・病弱教育学校の教員としての専門性を高めるような研修を計画、実施する。</p> <p>・不登校児の支援について好事例から学び、支援につなげる。</p>
キャリア教育の充実	<p>◆登校や学習への指導・支援に困難性が高い児童生徒への対応への取組を進める。</p> <p>◆病気と向き合いながら、進路や職業について考える力を育み、学習意欲を高める。そして、治療に向かう力にもつなげる。</p>	<p>◆病気や不登校のため学習意欲が低下していたり、自分の将来に目を向けにくかったりする児童生徒は少なくない。外部講師による職業や仕事内容についての話を聞くことにより、児童生徒が自分の将来の生活について考えるきっかけにしたい。</p> <p>◆ストレス発散の場も必要であり、自立活動等の時間を有効活用し、入院生活のストレスの軽減を図り、学習意欲を高める。 <評価指標> ○外部講師による児童生徒の学習の時間を年間2回以上実施する。 ○学校評価アンケート等の分析</p>	<p>◇ゲストティーチャー等による授業及び、ボランティア等による課外授業を実施する。</p> <p>◇登校や学習への指導・支援に困難性が高い児童生徒が在籍した場合は、医師・看護師・SCを含めた支援会議を実施し、支援方法等を検討する。また前籍校や関係者とも情報共有し移行支援も行う。</p> <p>◇自立活動の時間に、本人の興味関心を考慮しながら、体を使ったゲームやボードゲーム、ドローン等を取り入れながらストレス軽減を図る。また、状況によってはSCと連携して支援する。</p>	<p>◇10月27日には、高知大学医学部附属病院栄養士をゲストティーチャーに迎え、「栄養士の職業・仕事」についての授業を実施予定。</p> <p>◇不登校気味の生徒が在籍しており、担任、学部の教員、SC等と連携して支援している。</p> <p>◇本人の興味関心を聞き取りながら、ゲームや小物づくり、将棋などに取り組んだ。新たにゲーム機を導入したが、興味をもつ児童生徒も多く、楽しみにもなり、ストレス解消に役立っている。</p>	<p>◇児童生徒の在籍状況に応じて機会を逃さず、外部講師による授業を計画・実施する。</p> <p>◇不登校児の支援方法をまとめる。LD児の書字指導については事例研究を行う。医師やSCから助言をいただく。</p> <p>◇自立活動、また、これまで実施できていなかった課外活動(学校行事)を個別に実施する。コロナ禍の児童生徒はより孤独で不安を抱えていることから教員とコミュニケーションをとる場をより確保する。</p>	<p>◇病院の管理栄養士をゲストティーチャーに迎え「栄養士の職業・仕事」についての授業を実施した。病気により食事管理の必要な生徒もおり、熱心に話を聞いていた。</p> <p>◇不登校児の支援をマニュアル化することは難しいと専門家から話を聞くことができた。児童生徒の実態、家庭環境を把握し、病院と連携してその都度方策を立て支援に取り組むこととした。</p> <p>◇児童生徒の不安やストレス解消のため自立活動の時間だけでなく、課外活動でもゲーム等の活動を行い、「楽しかった」という感想を聞くことができた。</p>	B	<p>学校からの報告を受け、取り組んでいる様子を知らせてもらったうえでの評価である。</p> <p>・病気や不登校のために学習意欲が低下している児童生徒の多様な学びの場であり、学び方について検討する。</p> <p>・児童生徒の将来の職業選択について考えるきっかけとなるようなゲストティーチャーを選定し、授業を実施する。</p> <p>・教員もカウンセリングを学び、カウンセリングスキルを身に付ける。</p>
学校設定項目	<p>◆病院、保護者、前籍校との連携し、学習の保障と充実を図り、円滑な前籍校への復学につなげる。</p>	<p>◆病院と連携し、病状の確認・治療の見直し等を確認しながら学習内容の充実を図る必要がある。</p> <p>◆スムーズな復学に向けて、児童生徒の状況に応じて居住地校交流を実施する必要がある。 <評価指標> ○必要に応じて支援会を実施する。 ○医教連絡会を5回以上、医教連絡協議会を2回実施する。 ○参観週間を年間3回実施する。</p>	<p>◇医教連絡協議会及び医教連絡会を実施する。</p> <p>◇必要に応じて支援会議を実施する。(前籍校、病棟、分校等)</p> <p>◇参観週間を各学期に1回実施する。(保護者・病院関係者に案内)</p> <p>◇児童生徒の状況等によって、テレビ会議システム等を活用し、居住地校交流を実施する。</p>	<p>◇医教連絡協議会、医教連絡会を実施し、病院との情報交換を行い、連携について確認した。</p> <p>◇コロナウイルス感染予防のため、リモートで支援会を実施したが、操作等に不具合もあり会議時刻が遅れたり、聞こえにくかったりした。会議の内容には支障はなかった。</p> <p>◇中学部在籍生徒2名がリモートで居住地校交流を実施し、友達との会話を楽しんでいた。</p>	<p>◇医教連絡協議会、医教連絡会を確認する。</p> <p>◇支援会等がリモートで行うことが多くなると考えられるため、普段から操作に慣れておく。不具合等の問題はすぐに解決しておく。</p> <p>◇在籍児童生徒については、居住地校交流をすすめ、実施していく。</p>	<p>◇医教連絡協議会、医教連絡会を定期的に実施できた。児童生徒の病状確認、支援体制の確認ができ、円滑に学校運営できた。</p> <p>◇必要に応じて支援会を準備できた。退院した児童生徒については順調に日常生活に戻っていると聞いている。</p> <p>◇リモートで居住地校交流を4名の児童生徒が述べ9回実施した。児童生徒からは交流できてよかったとの感想があった。</p>	B	<p>学校からの報告を受け、取り組んでいる様子を知らせてもらったうえでの評価である。</p> <p>・医教連絡協議会・医教連絡会の実施 ・教頭は、病棟と連絡を取り合い情報共有する。 ・教員は前籍校と連絡を取り合い、情報共有する。 ・個人情報の扱いに注意し、本人、保護者の意向にそって学習をすすめる。</p>
働き方改革	<p>◆適切なタイムマネジメントと業務の効率化を図る。</p>	<p>◆令和2年度には、「業務改善シート」により、学部・分掌で業務内容を見直しを行った。業務内容が削減され、整理できた。また、教員が担当する役割についても明確になり、担当者を決める際にもスムーズに決定できるようになった。新たな役割分担の中で業務遂行上、不具合がないか確認が必要である。 <評価指標> ○年休:10日以上取得 ○学期末の職員会や反省職員会等の意見集約 ○面接による教員からの聞き取り ○業務引継ぎシートの作成(学部・分掌、担当、教頭) ○引っ越しに伴い、教材・教具、物品、書類等の廃棄・整理</p>	<p>◇仕事の偏りや業務上の不具合がないか職員会で確認する。</p> <p>◇教員同士、管理職も含め話しやすく、協力を求めやすい環境とするため、相手を思いやる言動を心掛け、教職員全員で取り組む。</p> <p>◇校務量等に偏りができた場合は、校長を含めた職員会等で対策を検討する。</p> <p>◇学期末の反省職員会等で状況を確認する。分校内で解決できない内容の場合は、本校や特別支援教育課等に相談する。</p>	<p>◇教員の仕事の実施状況に気をつけるとともに、日々の会話により把握した。</p> <p>◇話しやすい雰囲気づくりに努めた。職員会では、労働安全衛生に関する協議も行い、休職者が出やすい職場にないかを確認した。また、チェックリストを活用して学校環境一斉点検を実施した。10月の職員会では、教頭が「働きやすい職場」としての方針を示し、確認する予定である。</p> <p>◇9月には業務引継ぎシートについて様式と内容を提案、各自作成に入っている。</p>	<p>◇教員同士が、会話できるような雰囲気づくりをする。</p> <p>◇「働きやすい職場」の方針について、職朝や職員会できき話に話し、健康で安全な職場環境づくりに教員全員で取り組む。</p> <p>◇業務引継ぎシートの作成状況を把握する。2月には、内容を検討し、次年度の引継ぎ時に使用できるようにする。</p>	<p>◇少人数の静かな職場であるが、時には雑談も交えるなど雰囲気はよかった。また、何か頼みごとをされても嫌な顔をするような教員はおらず気持ちよく働けている。</p> <p>◇教員同士でのあいさつもできており、それぞれを気遣いながら働くことができた。長期休業中は病院に迷惑がかからないか確認したうえで日直一人での勤務の日も作り、どの教員も連続休暇が取れるようにした。教材研究、事務処理等も勤務時間内にできており、全教員が17時を目途に退勤できるようにした。</p> <p>◇業務引継ぎシートを作成することができた。年度末に活用して引継ぎをスムーズに行う。</p>	A	<p>職員室の鍵の不具合があったことだったが、支障はないかという質問があり、支障なっていると答えた。</p> <p>学校からの報告を受け、取り組んでいる様子を知らせてもらったうえでの評価である。</p> <p>・4月の組織づくりの際には、業務引継ぎシートを使用し、各担当の業務内容を確認する。 ・教員全員が定時退勤できるよう役割分担し、業務内容を分散させる。そのため、職員会が定期的に教員の業務内容を確認する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・教頭は教員の勤務状況を管理し、働きやすく、休みやすい環境にすることを提案、教員と一緒に分校の働き方改革をさらにすすめる。</p>